

「つぼみ」細目(五)

自第十九開至第二十四開

山内祥史

第十九開 明治二十四年十一月二十五日發行

告白

會説

眞正の慈善

花壇

文学者之筆

山陽英和女学校高等二年生

狂花を観て感あり

梅花女学校本科四年生

某姉の新婚を祝ひて

同志社女学校本科生

操山に楓葉を観る

山陽女学校本科二年生

吾人の前途

梅花女学校本科二年生

T. N. 生

七〇八

八〇九

九一〇

天長節を祝ひ奉る

同志社女学校本科二年生

一〇

友の遊学を送る文

山陽英和女学校予備科二年生

一〇〇一

試験前の偶感

梅花女学校本科二年生

一一〇二

慈善之事業を起す必要を論ず

同志社女学校本科二年生

T. A. 生

一二〇三

久別思慕之文

梅花女学校本科一年生

一三

看菊之記

山陽英和女学校普通科二年生

一三〇四

新奇なる学を猥りに修むる友に遺す文

梅花女学校本科一年生 林たゞ子

一四〇五

拾芳

良人を撰ぶの注意

在備中 古木寅三郎

一五〇九

音楽の弁（前号のつゞき） 猶存小史 一九～二二

談叢

エドウィン、アーノルド氏の詩話 京都 今川新子 二二～二三

婦人の欧羅巴 二二～二三

一家八児皆な俊秀（接前） 二三～二四

尾濃震災実視の記 二四～三〇

諺ぐさ（第三回） 三〇～三一

余薫

数学哲学文学の大家パスカルの略伝（承前） 菅原竹弄生 三一～三三

文苑

詩話 松山堂主人 三三～三四

和歌のしをり（第三回） 三四～三五

詩歌数十首 栢楼塵仙・淡道人・香川・たねひら・には子・さた子・大島英子・高橋豊子・美喜まさ子・山家あつ子・今村幸子・児島文子・柳瀬ひろ子・武川とく子・笹井まさ子・中村淳子 三五～三八

記事

同盟姉妹校の歴史（山陽英和女学校設立以来概略）、松田きた女の永眠 三八～四〇

特別会告、会告、入会報告、広告

第二十開 明治二十四年十二月二十日発行

告白

会説

文章要論 美軒小史 一～五

花壇

風潮 梅花女学校本科四年生 五～六

亡き友 神戸英和女学校本科三年生 山口しげ 六～七

掃塵の事を紀す 梅花女学校本科一年生 七

嵐映観楓の感 同志社女学校本科二年生 七～八

行儀作法の修め善くすべき説 神戸英和女学校生 坂田あき 九

観雪記 梅花女学校本科一年二期生 九～一〇

亡父を懐ふ 同志社女学校本科四年生 一〇～一一

秋雨 神戸英和女学校本科一年生 鈴木幸恵 一一～一二

美濃の地震 同志社女学校本科三年生 一二～一三

嗚呼又一学年 本科三年二期 山脇よね 一三～一四

春と秋 同志社女学校本科一年生 一四

病牀に在る叔母に贈くる文 梅花女学校本科二年生 一四～一五

拾芳 基督教徒の従順 ドウデー女史述 某氏訳 一五～一七

談叢 地震の惨語 玉兔子 一七～一八

矢鳥忠左衛門の配三村氏碑陰の記 一八～一九

作文法、読書法、復習法 故人 貝原益軒 一九〇二〇
 大坂城沿革略記 二〇〇二二
 謠ぐさ(第四回) 二一〇二二

余薫

ミッセス、エリサベス、フライ(接第十八回) 二三〇二五
 数学哲学文学の大家パスカルの略伝(承前) 二五〇二九

文苑

詩話 松山堂主人 二九〇三〇
 和歌のしをり(第四回) 三〇〇三一
 常盤の前といふ題にてそこにてよめる 三一

詩歌数十篇 東洋漁夫・岡 供・佐野 徳・畑

さく・高橋とよ子・今村幸子・三木千鶴 三一〇三二
 子・三木真砂子 三一〇三二

寄書

日本婦人教育の方針 在岡山会友 ま、ひ生 三二〇三四

記事 同盟姉妹校の歴史(神戸英和女学校)、神戸英和女学校通信、神戸英和女学校の新委員、大阪一致女学校文学会、阪口菊三郎氏、震災救恤 三五〇三八

附録

三村つる子の和歌 三八〇四〇

第二十一開 明治二十五年一月三十日発行

告白

会説

初年の辞 一〇二
 女子の文章 二〇四

花壇

熊本女学校々長就任式祝辞 井関てる 五
 神戸英和女学校本科二年生 五〇六
 新鶯の説 梅花女学校本科二年生 六〇七
 撮音器を聴て感ずるまゝ 同志社女学校本科三年生 七〇八

家庭教育の価値

同志社女学校本科三年生 七〇八

秋夜読書の記

松山女学校本科老年生 八〇九
 吾党ト世人 梅花女学校本科四年生 九〇一〇
 学生の困難 松山女学校本科老年生 一〇〇二一

酒井土佐子ぬしの身まかりけるをおしみて 一一〇二二

紫式部を夢む

同志社女学校本科二年生 一二〇二四

高樓雪を賞す

梅花女学校本科一年生 一四

秋夜の感

山陽英和女学校高等科一年生 一四〇一六
 身中の財 梅花女学校本科三年生 一六

拾芳

迎年述志 北郊散史 一七〇一八
 女学生の経済 葦江漁史 一八〇二〇

談叢

先生自作の句を解せず

満古登 二一〇二二

ツライデンのミルトン賛

静思楼主人 二二二

小児の善き風箏

二二二二四

出火の時の心得

二四

諺ぐさ

二四〇二五

元素の原子重測算法

仲田誠四郎 二五〇二七

余薫

女丈夫

菅原九章堂主人 二七〇三〇

文苑

詩話

松山堂主人 三〇〇三一

和歌のしをり(第五回)

三一〇三二

八雲春の詞

榎廼舎 三二

和歌数十篇 清香・まさ子・永井盈雄・菅原源

三二

三・大島栄子・中根つね子・今村幸子・

三二〇三三

辻さかよ子・上代花子・よみ人知らず

三二〇三三

記事

神戸英和女学校の割烹場、松蔭女学校、望月麻

生両氏、ミスブラオン、教員の永眠、深谷俊雄

氏

三三〇三五

万年七曜曆

仲田誠四郎 三三〇三七

特別会告、会告、広告、緊急広告

三三〇三七

特別会告

三三〇三七

第二十二開

明治二十五年二月二十九日発行

特別会告

明治二十五年二月二十九日発行

特別会告

明治二十五年二月二十九日発行

特別会告

明治二十五年二月二十九日発行

会説

「つぼみ」枝上絶美の花

神戸英和女学校 星野忠直 一〇四

雑誌登載する作文之事に就て姉妹に告げ侍りし

星野忠直 四〇五

話

花壇 愛する教師の病気に就き 鳥取英和女学校生徒 五〇七

聲譽望むに足らず

神戸英和女学校高等科生 藤本 節 七〇九

勢

瓶梅の記 神戸英和女学校高等科生 佐野 路 九〇一

雪夜の感 同志社女学校本科三年生

山口 茂 一二〇二三

自戒 神戸英和女学校本科三年生

梅花女学校本科三年生 一三〇二四

自棄する勿れ

将来の目的 神戸英和女学校本科三年生 木村多つ 一四〇二六

庭前の鶯を聞く 一致女学校生

神戸英和女学校本科二年生 藤山さい 一六〇二七

真個の学生 梅花女学校本科三年生

歳首の決心 神戸英和女学校本科二年生 中塚いく 一八〇二九

孝行 松蔭女学校本科一年生

女学回勢策 梅花女学校本科三年生 一九〇二〇

大業は小事を勉むるに由りて成る

神戸英和女学校本科一年生 常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

神戸英和女学校本科一年生

常見ます 二〇〇二二

所感 梅花女学校本科一年生 二一〇二二
節儉の説 二一〇二三

神戸英和女学校本科一年生 藤田ます 二二二二三
同志社女学校本科二年生 二二三二四

拾芳

予が女性教育に関する意見片々 仲田誠四郎 二四〇三〇

談叢

ペスタロッヂの母と下婢 孤蓬 三〇〇三一
自警反省 山陰 三一〇三二

元素原子重測算法(承前) 三二二三四
英国文壇最大のユモリスト 静思楼主人 三三四三五

余薫 九章堂主人 三六〇三九
女丈夫(承前) 中川東洋 三九〇四一

文苑 メリーワシントン 四一

詩話 和歌のしをり(第五回) 松山堂主人 四一

詩及和歌数十篇 川野松山・望月玉碎軒・淡道 四一〇四二

人・真那閉・よみ人不知・長尾とら子 四一

藤井ひさの子・淡道人・白石りん子・菅 四一

原源三・谷村すゑ子・上代花子・小島幸 四一

子・武田長子・岸せつ子 四三〇四四

寄書 仲田氏の寄送に係る万年七曜曆に付て同氏に乞 四四〇四六

ふ所あり 菅原源三 四四〇四六

右に對して 満古堂 四六〇四七

記事

女文会の第三集会、祈禱会、裁縫教師、卒業生の婚姻、女学生の運動、玉手山に遊べる記 四七〇四八
告白、会告

第二十三開 明治二十五年三月二十四日発行

特別会告

会説

第三回女文会大会に就て 一〇三

花壇

過て改むることなきを過と云ふべし 三〇四

春日遊野 大阪一致女学校 四

故新島先生の肖像に題す 大阪一致女学校 四

現時の我国 神戸英和女学校高等生 妹尾 安 五〇六

友人の清国に之くを送る文 神戸英和女学校本科三年生 武川 徳 六〇七

梅園漫步の記 神戸英和女学校本科二年生 赤木みさほ 七〇八

辭氣 神戸英和女学校本科三年生 難波 祇 八〇九

鶯の喩 同志社女学校本科二年生 八〇九

二月十九日の暁 神戸英和女学校本科二年生 赤木みさほ 九〇九

謹慎 梅花女学校本科一年三期生 九〇九

陰れた働の貴ぶべき説 神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

神戸英和女学校二年生 山家えつ 一〇〇一一

試験を恐るゝ人に贈る文

松蔭女学校本科一年生

一一

外貌の礼儀

神戸英和女学校本科二年生

岡 供 一一〇二二

慈善事業を起すの必要を論ず

同志社女学校本科一年生

一二〇二三

大人は小事を忽せにせざる説

神戸英和女学校本科二年生

小沢ゑみ 一三〇二四

はかなき憂世

梅花女学校本科三年生

一四〇二五

蟻の説 神戸英和女学校本科一年生

西村 春 一五〇二六

蠶説 梅花女学校本科一年生

一六〇二七

神戸 神戸英和女学校本科一年生

水谷小琴 一六〇二七

新聞紙の効用

梅花女学校本科一年生

一七〇二八

書を寄せて外国にある友人に女子教育を談ず

神戸英和女学校生

小林 富 一七〇二九

拾芳

婆心

良人は吾が心にあり

音楽の妙手刺客を脳殺す

オルガン

戦争に於ける楽器の効用

フレデリック大王の楽器三昧

英国文壇最大の『ユモリスト』(承前)

静思楼主人 二二〇二五

玉手山に遊べる記(承前)

物質組織説

余薫

ミツセス、エリザベス、フライ(接第式拾開)

ハリエツト、ピーチャー、スタウ夫人の小伝

この花 二七〇三〇

文苑 中川東洋 三一〇三二

和歌のしをり 三三〇三三

養痾雜吟 望月玉碎軒 三四〇三四

詩及和歌数十篇 河野松山・梅花女学校本科四

年生某・全三年生某・荒木やす子・三木

千鶴子 三四〇三五

西諺訳 同志社女学校本科四年生 三五〇三五

寄書

松の落葉

お亀の顔に就きて

あきのり 三五〇三六

真善美居士 三六〇三七

同志社女学校記事、神戸通信、梅花女学校記事、

つぼみ批評(越佐新聞の批評) 三七〇三〇

告白、会告、広告

第二十四開 明治二十五年四月二十八日発行

会説

我旧姉妹の美德

花壇 一〇〇三三

親彰 二六〇二七

二五〇二六

二七〇三〇

三一〇三二

三三〇三三

三四〇三四

三五〇三五

三七〇三〇

禮で亡君辻仙姉を追悼す

同志社女学校本科四年生

三〇五

陰微なる働

同志社女学校本科三年生

T U

五

生涯

同志社女学校本科四年生

五〇六

師の恩

同志社女学校本科三年生

森 菊代

六〇七

つくし狩の記

同志社女学校本科三年生

中谷 季

七〇九

某の兵役に服して某鎮台に行くを送る

同志社女学校本科三年生

中谷 季

九

花紅柳緑は心の春

同志社女学校本科四年生

エム、ケー女史

九〇一〇

春休

同志社女学校本科一年生

深山正枝

一一

観桃花記

同志社女学校本科二年生

河越てる

一一二

案山子

同志社女学校本科一年生

河越てる

一一三

旭桜を観る記

同志社女学校本科二年生

S. H.

一一三

身体の健康

同志社女学校生徒

辻さかよ

一一四

遊吉野山記

同志社女学校本科一年生

辻さかよ

一一五

友人某の洋行を送る文

同志社女学校予備科二年生

神岡 宇

一一六

試験及第を父母の許に知らず文

同志社女学校予科二年生

松蔭女学校予科二年生

一一六

速成は喜ぶべきか非耶

同志社女学校予備科二年生

明石寿代

一一七

拾芳

婦人の事業

月の大小を記憶する方法に付て

談叢

焼野の雉子夜の鶴

テニソノ卿と聖書

隱微の救激力

物質組織説(承前)

余薫

女丈夫(承前)

文苑

詩話(承前)

こたびおもふとちなる辻仙女が身まかりければ

和歌及詩十数篇 芽我里子・今村幸子・伊藤貞

子・美喜まさ子・玉兎子・川野松山・望

月玉碎軒・村山小梅

JAPAN

寄書

前輯何子くれ子のさだに答ふる詞

記事

第三回女文会大会記要、神戸英和女学校の春季

大文学会、同志社女学校記事、梅花女学校記事

特別会告、告白、会告、同盟姉妹校

神戸英和女学校生徒

F. K.

一七〇一八

宮川蘇溪

涪篋子

ワイ、エス、

親彰

九章堂主人

松山堂主人

池袋清風

I. Nakatsuka

まさこ

三〇〇三四

三四〇三五

二七〇二八

二七〇二八

二五〇二六

二六〇二七

二七〇二八

二八〇三〇

三〇〇三四

三四〇三五

二七〇二八

二七〇二八

二五〇二六

二六〇二七

二七〇二八

二八〇三〇

三〇〇三四

三四〇三五

二七〇二八

二七〇二八